

『見聞雑記』

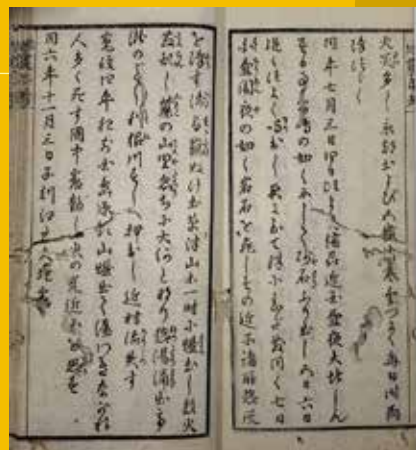
国立公文書館蔵／江戸時代後期

島原と天草の津波被害状況を幕府へ届け出た報告の写。天草は流家373軒、溺死者343人（内、男148・女93・不明102）などのほか、高札場や郷蔵の破損状況についても収めています。

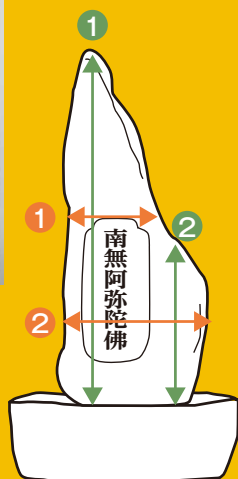
山崎久作著『大地震暦年考』

安高啓明研究室蔵／安政3（1856）年

天平16（744）年の肥後国大地震をはじめ、古代から江戸時代後期までの地震や津波などを時系列に収めています。島原大変についても山体崩落により多くの人が死に、近隣を光（噴火）で照らしていると記しています。



【碑文】
寛政壬子夏四月朔島原水災死骸漂流到置海濱都一百人爰有小山某者□悼其不幸而横死皆悉收拾死骸合葬以築墳墓出賃供養三寶祈求追福焉而請余話其事因書此刻其碑上云 寛政癸丑夏四月朔 光臺山人靈燈題



五和町御領大島津波供養塔拓本

碑：寛政5（1793）年4月1日
拓本：安高啓明研究室蔵

大島沿岸には百余人の溺死体が打ち上げられました。災害の翌年、小山某が費用を捻出して供養塔を建立、合葬して追悼されています【一覧表⑨-1参照】。

法量	
高さ：①	135cm
②	63.3cm
横幅：①	30cm
②	48cm
奥行：	28.5cm



島原大変肥後迷惑

天草編



寛政4（1792）年4月1日に雲仙岳の眉山が崩落して有明海に流れ込むと大津波が発生します。島原の対岸にあたる天草島にも直接影響をもたらし、多くの溺死者を出しました。また、島原領民の溺死者も天草に流れ着くなど、海岸には多くの死体で埋め尽くされます。こうした状況を悼んで、住民らの篤志により供養塔が建立されました。石材は砂岩がほとんどですが、その形状や碑文は様々で、これらから当時の自然災害に対する想いを知ることができます。



宮崎成身著『視聴草』 国立公文書館蔵／江戸時代後期
寛政4（1792）年正月から頻発する雲仙岳の噴煙の様子を描いています。

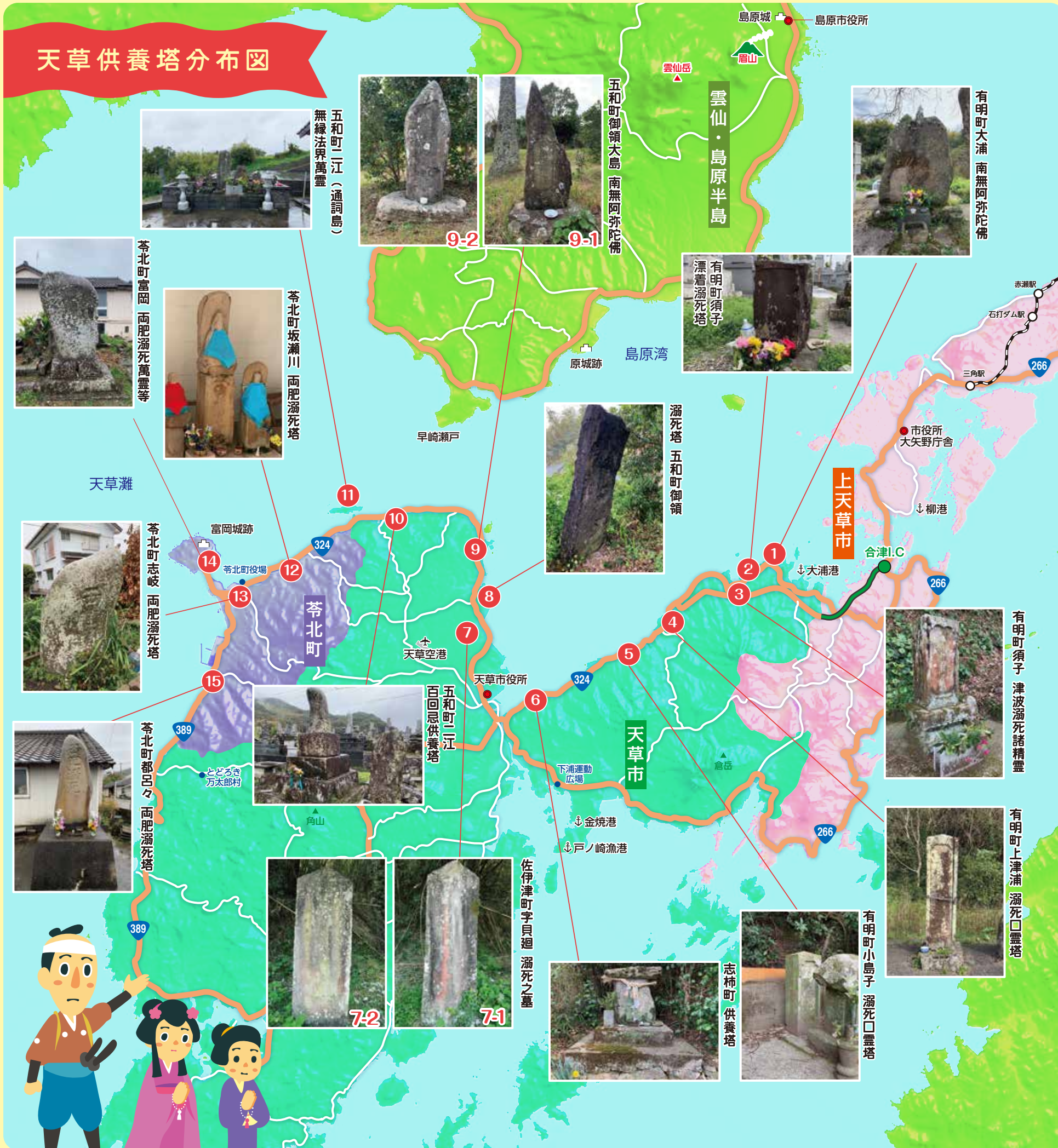


長崎・熊本両県における自然災害（地震・噴火・津波）に関する総合調査
—寛政4年「島原大変肥後迷惑」の文献・慰霊碑を中心に—

- 研究代表／安高 啓明（熊本大学大学院准教授）
- 松本 博幸（天草市文化課・参事（学芸員））
- 久保 春香（雲仙市教育委員会・主事（学芸員））
- 山下 葵（熊本大学大学院）
- 吉田 信也（島原市教育委員会・主任（学芸員））
- 長屋 佳歩（熊本大学大学院）
- 川端 駆（熊本大学）



天草供養塔分布図



「嶋原大変肥後迷惑」天草供養塔の現況把握一覧

No.	碑銘	所在地	年代		建立者	形状	素材	備考
			和暦	西暦				
1	南無阿弥陀佛	天草市有明町大浦字桑原田	未判読		未判読	自然石立碑	砂岩	「寄人さま」と呼ばれる
2	□□□漂着溺死塔	天草市有明町須子字櫻ノ戸	未判読		未判読	不明	砂岩	共同墓地内
3	津波溺死諸精霊	天草市有明町須子字長続	寛政四子年四月朔日	1792	未判読	尖頂方柱形	砂岩	須子神社隣接地
4	溺死□霊塔	天草市有明町上津浦字二又	寛政四壬子四月	1792	宅右衛門他2名	尖頂方柱形	砂岩	上津浦漁港奥、海岸
5	溺死□霊塔	天草市有明町小島子字二本松	維時寛政四壬子年四月朔日	1792	吉田他複数名	尖頂方柱形	砂岩	国道266号線沿い民家内
6	不明(判読不能)	天草市志柿町	判読不能		判読不能	不明	砂岩	国道266号線沿い、旅館河丁向かい側に移築
7-1	南無不可思議光如来溺死男子之塔	天草市佐伊津町字貝廻	寛政四年奄集中子四月朔日	1793	世話人幸八利兵衛	圭頭形整形立碑	砂岩	海岸線にあったものを、国道工事のため山中に移築
7-2	南無阿弥陀佛溺死之墓	天草市佐伊津町字貝廻	寛政四年子四月朔日	1792	施主幸八利兵衛浦中	圭頭形整形立碑	砂岩	稱佛名號 正命終時即轉女身 得成男子(※大乘仏典の一部)を刻む
8	□□□溺死塔	天草市五和町御領字黒崎	未判読		未判読	自然石立碑	凝灰岩	塚前面の砂浜より、戦後大量に人骨が出たと地元証言あり。口之津等から供養者が参りに来ている
9-1	南無阿弥陀佛	天草市五和町御領大島	寛政癸丑夏四月朔	1793	光臺山人 靈燈題	自然石立碑	砂岩	近隣共同墓地から現在地(若宮公園内)に移築
9-2	□□□□佛	天草市五和町御領大島	不明		不明(無し)	自然石立碑	砂岩	同上
10-1	不明(判読不能)	天草市五和町二江字須の脇	判読不能		判読不能	自然石?	砂岩	
10-2	「百回忌供養塔」	天草市五和町二江字須の脇	明治二十五年	1892		自然石立碑、基壇を伴う	砂岩	百回忌で地元寺院により建立
11	無縁法界萬霊	天草市五和町二江(通詞島)	寛政四壬子年四月朔日	1792	肥前嶋原天草當若者中立之	自然石立碑	砂岩	海潮庵境内
12	両肥溺死塔	天草郡苓北町坂瀬川字和田	寛政四壬子年四月一日	1792	平頂方柱形に舟形観音像		砂岩	観音堂内同地区で管理、祀る
13	両肥溺死塔	天草郡苓北町志岐字浜の町	寛政十三辛酉天正月十六日立之	1801	不明	自然石立碑	砂岩	共同墓地内
14	両肥溺死萬霊等	天草郡苓北町富岡	寛政七乙卯年四月十日造	1795	不明	自然石立碑、基壇伴う	砂岩	西生庵境内 天草最大の碑
15	両肥溺死	天草郡苓北町都呂々字浜	不明		不明	自然石立碑	砂岩	昭和34年10号台風で海中に流出し、引き上げられ現在地に移